



# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2025/01/15  
 SDS整理番号 20505150

製品等のコード : 2050-5150、2050-5170

製品等の名称 : トリ-n-オクチルアミン

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 非鉄金属の抽出溶剤, 有機酸の回収, 廃水処理 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性  
 引火性液体 : 区分に該当しない  
 自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
急性毒性(経口) : 分類できない

環境に対する有害性  
 水生環境有害性 短期(急性) : 区分1  
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

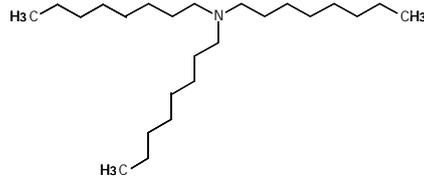
### 注意書き

- 【安全対策】  
環境への放出を避けること。
- 【応急措置】  
漏出物を回収すること。
- 【保管】  
日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。
- 【廃棄】  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質



化学名	:	トリ-n-オクチルアミン (別名) トリオクチルアミン、トリオクタン - 1 - イルアミン、 1-オクタンアミン、N,N-ジオクチル-、 トリカプリルアミン (英名) Tri-n-octylamine、Trioctylamine (EC名称)、 Trioctan-1-ylamine、 1-Octanamine, N,N-dioctyl- (TSCA名称)、 Tricaprylylamine
成分及び含有量	:	トリ-n-オクチルアミン、 95%以上
化学式及び構造式	:	[CH <sub>3</sub> (CH <sub>2</sub> ) <sub>7</sub> ] <sub>3</sub> N、 C <sub>24</sub> H <sub>51</sub> N、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	353.68
官報公示整理番号	化審法	(2)-139、(2)-143
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	1116-76-3
TSCAイベントリ	:	登録済(1116-76-3、ACTIVE)
ECイベントリ	:	登録済(214-242-1)
危険有害成分	:	トリ-n-オクチルアミン

## 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。
目に入った場合	:	汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	:	眼の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。 直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし		

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大する可能性があるため)
特有の危険有害性	:	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。 火元への燃焼源を遮断する。 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じん、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法	機材	危険でなければ漏れを止める。 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
二次災害の防止策	:	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 周辺の発火源を速やかに取除く。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管条件	: 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 必要に応じて、施錠して保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等）、 強酸
容器包装材料	: ガラス、ふっ素樹脂など。 鉄製などの金属容器は腐食の可能性があるため、使用しない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、 日本産業衛生学会 ACGIH 生物学的ばく露指標）:	: 設定されていない。 設定されていない。
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 鉄などを腐食する可能性があるため、設備には防錆加工が必要である。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具（耐アルカリ用マスクなど）を着用する。
手の保護具	: 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具:	: 保護衣、顔面用の保護具を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 淡黄色
臭い	: 特異臭(アミン臭)
pH	: 中性～弱塩基性（飽和水溶液、25℃）
融点	: -35
凝固点	: データなし

沸点	: 365
引火点	: 168 (密閉式) 190 (クリーブランド開放式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: <0.01hPA (20 )
相対ガス密度 (空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 0.803 g/cm <sup>3</sup> (30 )
比重	: データなし
溶解度	: 水にほとんど溶けない (0.05mg/L, 25 )。 エタノール、アセトン、四塩化炭素、クロロホルムなどの 多くの有機溶剤に可溶。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 10.35
発火点	: 315
分解温度	: データなし
粘度	: 15mPa·s (20 )
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
<b>GHS分類</b>	
可燃性固体	: 引火点は168 [密閉式] (GESTIS (2011)) であり、93 超であること から、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 発火点は315 であり、常温の空气中で自然発火しないと考えら れるので、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性 (反応性・化学的安定性)

- : 通常の実験条件において安定である。
- 光の暴露により徐々に変質する。
- 危険有害反応性可能性: 強酸化剤と混触すると、激しく反応することがある。  
強酸と混触すると、反応することがある。  
加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物などの有毒なヒュームを生じる。
- 避けるべき条件: 日光、光、高温
- 混触危険物質: 強酸化剤、強酸、酸無水物、酸塩化物
- 危険有害性のある分解生成物: 加熱すると分解し、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒なガスを発生  
する。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性: 経口 分類できない。  
経皮 分類できない。  
吸入 (蒸気) 分類できない。  
吸入 (ミスト) 分類できない。  
その他のデータ 腹腔 マウス LD50 = 250 mg/kg (RTECS)
- 皮膚腐食性/刺激性: 分類できない。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性: 分類できない。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性: 呼吸器感作性: 分類できない。  
皮膚感作性: 分類できない。
- 生殖細胞変異原性: 分類できない。
- 発がん性: 分類できない。  
知見データがなく、産衛学会や IARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSA の国際  
評価機関の報告がないため、分類できない。
- 生殖毒性: 分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露): 分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露): 分類できない。
- 誤えん有害性: 分類できない。

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

- 水生環境有害性 短期 (急性): 藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72時間 ErC50 = 0.0022 mg/L  
(環境省生態影響試験, 2008)
- 水生生物に非常に強い毒性 (区分1)
- 水生環境有害性 長期 (慢性): 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく (BODによる分解度:  
0% (既存点検, 1983))、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata)  
の72時間 NOEC = 0.00020mg/L である (環境省生態影響試験, 2008) こと  
から、区分1とした。

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度 = 0%

生物蓄積性 : 高濃縮性。Log Pow = 10.35

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
(参考) 燃焼法  
可燃性溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付焼却炉の火室で焼却する。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 171

## 国際規制

海上規制情報 (IMO/IMDGコードの規定に従う)

UN No. : 3082  
Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.  
(Trioctylamine)  
Class : 9 (有害性物質)  
Sub risk : -  
Packing Group : III  
Marine Pollutant : Yes (該当)  
Limited Quantity : 5L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 3082  
Proper Shipping Name : Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s.  
(Trioctylamine)  
Class : 9  
Sub risk : -  
Packing Group : III

## 国内規制

陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 3082  
品名 : 環境有害物質 (液体)  
クラス : 9  
副次危険 : -  
容器等級 : III  
海洋汚染物質 : 該当  
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当  
少量危険物許容量 : 5L

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 3082  
品名 : 環境有害物質 (液体)  
クラス : 9  
副次危険 : -  
等級 : III  
少量輸送許容量 : 30kg (包装込みの質量)

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのな

いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当。
	なお、令和6年4月1日施行、令和7年4月1日及び令和8年4月1日施行予定の表示・通知対象物の追加物質にも非該当 (法第57条、法第57条の2) また、皮膚等障害化学物質およびがん原性物質にも非該当 (安衛則第594条の2、安衛則第577条の2)
化審法	: 優先評価化学物質の取り消し (官報公示日: 2024/03/29) 旧第三種監視化学物質 No.176 (官報公示日: 2010/03/19)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 危険物第4類(引火性液体) 第三石油類 非水溶性、 指定数量2000 L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
化学物質排出管理促進法 (PRTR法)	: ・分類 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-322」 ・管理番号 「684」 ・政令名称 「トリオクチルアミン」
船舶安全法	: 有害性物質
航空法	: その他の有害性物質
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2921.19 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2025年1月版): 2921.19-000 「アミン官能化合物」 - 非環式モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: その他のもの」 ・輸入統計番号 (2025年1月1日版): 2921.19-000 「アミン官能化合物」 - 非環式モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: その他のもの」

## 16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じて作成しています。